

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 11 時 05 分）

---

◇ 渡 辺 文 彦 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位 2 番、渡辺文彦君。

（3 番 渡辺文彦君 登壇）

○3 番（渡辺文彦君） 通告に従いまして、壇上より一般質問を申し上げます。

この度の私の質問は、第 5 次総合計画後期計画についてであります。平成 30 年度から 34 年度分にあたります。この計画は、前期計画 5 年の成果及び課題を検証し、今後の 5 年間の行政施策を示し、町の将来像を展望するものであります。

社会情勢はめまぐるしく変化しており、状況の変化に対応した対応が求められております。それに対応するものがこの後期計画であります。

私の質問は、この後期計画が町の示す将来像に希望が得られるものであるかを確認することです。この計画は多岐に渡るもので、限られた時間内で全てを検証することはできません。

そこで、特に基本計画の第 1 節、観光振興、第 2 節、農林漁業の振興の分野において質問をしたいと思います。

町のあり方を考える時、町の産業政策は大きなウエイトを持つと考えるからであります。具体的には、農業振興の進め方及び道の駅パーク構想についてであります。詳細については、通告書で示したとおりでございます。

私の壇上からの一般質問はこれで終わりにします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 渡辺議員の質問でございます。一つは、第 5 次総合計画後期基本計画についてでございますが、その 1、平成 28 年 3 月に策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性はどのように保たれているのかという質問でございます。

松崎町第 5 次総合計画後期基本計画は、総合計画委員会での協議、町内団体とのヒヤリング、町民への意見募集を行い、このほど策定しました。後期基本計画では、産業振興・医療福祉・防災分野において特に力を入れていくこととし、具体的な重点取組施策を上げました。

策定期間のずれから、平成28年3月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と完全に整合が図られているとは言い切れませんが、いずれの計画も人口減少対策や活性化対策など重点的な施策・事業をとりまとめたものであり方向性のズレはないと思っております。

第5次総合計画基本計画のその2でございます。前期計画に対して、後期計画で特に見直しを必要とするところはどこか。また、それはどのように改善されているかという質問でございます。

私は、前期の総合計画を見た時に、抽象的で町民の皆さんには非常に分かりにくいのではないかと思います。このため、後期基本計画ではスローガンの羅列ではなくて町民の皆さんに分かりやすく具体的な重点取組施策を上げ、特に産業振興及び医療福祉分野、防災分野において力を入れていくことといたしました。

また、後期基本計画では評価・検証・改善を行うPDCAを明確に計画書にうたい、町民の皆さんに公表することとともに町政懇談会を行うことといたしました。このような情報公開を行うことが、町民の皆さんが行政に関心を持つことにつながるものであり、「町民満足度の高い町」を目指すうえで極めて重要なことであると考えております。

次の質問でございます。基本計画の「農林漁業の振興」について。(1)農業の振興の主な取組みに農地の集積化を推進するとあるが、どのように取り組むのかについてでございます。

農業者の高齢化が進み、耕作を続けることが困難な農地が増え続ける現状を踏まえ、農地を集積し農業の効率化を図ることにより、農地の拡大を希望する後継者や新規就農者などの担い手の確保につながっていくと考えます。

集積化については、県営中山間事業において鮎川地区や船田小山地区の基盤整備により、農地の集積及び農道・用排水路を整備することを計画変更で取り入れる見込みとなっております。また、中間管理機構による農地集積事業の活用により総合的な生産基盤の整備を図りたいと思います。

また、平成29年度に農業委員、農地利用最適化推進委員で勉強会を行い、松崎町農業振興ビジョンが完成します。農業振興ビジョンの中でも、担い手の確保、農地集積が優先課題として位置づけられており、地元に着目した農業委員、農地利用最適化推進委員が中心となって、耕作者などの相談相手となり、地域にあった集積・営農を推進してまいります。

次に、基本計画の「農林漁業の振興」についての(2)であります。桜葉の生産体制の強化を図るとあるが、今までもそれなりの対応がなされてきたはずだが、実績が上がっていない現状に対し、優先的に取り組まなければならない対応は何かという質問でございます。

現在、桜葉振興会では、町の補助金を活用し、ほ場の補植用の苗木を栽培して会員に配布し、生産量の確保を図っています。また、昨年度は、国の過疎地域等自立活性化推進事業交付金を活用し、料理コンテストやホームページ・パンフレットの作成などにより「桜葉生産日本一の松崎町」を知ってもらう事業を主として行いました。今年度については、農薬登録に向けた残留農薬の検査や薬効調査・害虫予察などを実施し、薬効調査については、来年度も引き続き行う予定となっています。

現状として桜葉は、需要はありますが供給が追いついていない状況でありまして、生産者の高齢化による担い手不足や耕作面積の減少等の原因も考えられますが、まずはこれら生産体制の現状を正確に把握する必要があります。

具体的には、新年度に桜葉振興部門を新設し、さらに地域おこし協力隊を活用して作付面積や出荷量、生産者の所得状況や出荷・販売ルートなど現状を把握し、その上で、病虫害発生に係る防除マニュアルの作成などによる効率的な生産活動や品質の向上、さらに、苗木や担い手の確保の検討など生産体制の強化を図っていきたいと考えております。

3つ目の質問でございます。重点施策に「道の駅パーク構想」が取り上げられているが、事業の完成はいつになるのか。また、予算はどのくらいを見積もっているかという質問でございます。

第5次総合計画後期基本計画の重点取組施策にあげた道の駅及び旧依田邸の整備活用につきましては、道の駅花の三聖苑と旧依田邸を中心ににぎわいを創出し、交流人口を拡大することで町の活性化を図ることを目的としているものでございます。このことを具現化するために産業関係者、地元関係者、まちづくり団体、NPO、金融機関などで構成する道の駅パーク構想基本計画策定委員会を設置し協議検討を重ね、このほど基本計画を策定しました。

事業実施につきましては、平成30年度から32年度の3か年計画で、事業費については農林水産物、加工品直売所や温泉施設、駐車場の整備、既存施設の改修などで約2億9000万円を予定しています。財源としては国県の補助及び過疎債を活用し、一般財源は1500万円ほどを見込んでおります。

私からの回答は以上でございます。

○3番（渡辺文彦君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○3番（渡辺文彦君） まず、総合戦略との絡みでちょっとお伺いしたいんですけれども、総合戦略は2年ほど前に作られているわけなんですけれども、その時、作られた時に、毎年度評価をし

て公表するという事になっていると思うわけですが、まず、それがなされているのかどうか、まずお聞きしたいと思うんですけども・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） 総合戦略につきましては、その評価、検証を日本で最も美しい村推進委員会という組織がございます。こちらは町内のあらゆる産業とか、関係者とか、そういった委員に参画していただいて構成している委員会ですけれども、その委員会に置いて毎年度この総合戦略の検証、評価等を公表しているところでございます。

○3番（渡辺文彦君） 私は、この美しい村の委員になっているわけですが、一度も招集がかかった覚えがございません。この検証が本当にされたのかどうか、まず疑問符なわけでありまして、そこで整合性を図るといわれているこの総合計画の信ぴょう性を疑わざるを得ないわけです。

○企画観光課長（高橋良延君） 昨年3月末に美しい村推進委員会を開催いたしまして、そこで評価、検証、委員の皆様にご公表したところでございます。毎年度これをやることになっておりますので、また本年度においても、年度末において計画をしているところでございます。

○3番（渡辺文彦君） わかりました。一応総合戦略は、政策的には人口社会増を目指す、人口減少対策ですね、基本的には。

自然減・・・、地域で子どもを増やそうということよりも外から人を連れてこようという戦略であるわけですが、そういう中で、総合戦略なり総合計画が基本的におそらく策定されているわけですね。そういう計画の中の大きなポイントを占めるのが、おそらく町の基幹産業が観光であるということで、観光客、いわゆる交流人口の拡大ということが大きな施策の一つになるのかと考えます。

その中で、先ほどいろいろ町の施設の状況を考えると、人が減っているという状況があるわけですね。そういう中で、新たにこの計画が作られているんですけども、この計画自体が本当にそういう方向性に向いているのかというのが正直かなり疑問符なんです。おそらくこの計画はそんなに・・・、ぼくが思うには・・・、町長は具体的にしたという話をされてはいるんですけども、あまり以前と変わっていない。ただ新たに付け加えられたのが桜葉に対することと、道の駅パーク構想の部分、依田邸と花の三聖苑に係る部分くらいかなと、あとは福祉に対する充実が図られているのかなとは思いますが、ただ福祉はいくら向上しても交流人口はそんなに拡大しないと思うんですね。

子育て支援を多く・・・、子育て支援に力を入れてよそから子どもを育てる世帯が移住してきたという例は各地にあるわけですが、松崎にいたってはまだそういうことはおきていな

と思います。そう考えると、やっぱりそういう方たちが入って来られるような施策があるのかどうかということなんですよ。

先ほどから聞いている限りは、町がずっとこれから一生懸命やって、町がうんとこれから人が増えてくるようなイメージが得られるわけですがけれども、なかなかそういう実態がないのかなというのがぼくの印象なんですね。その辺で、この計画性は飛躍した言い方すればですけど、絵に描いた餅になっているんじゃないかなというそんなイメージはあるわけですがけれども、その辺で、町長はこれだけは絶対やっていきたいということを述べられているわけですがけれども、その辺に対して後期計画の見直しでどのように重点的にされたかということがポイントになってくるわけですがけれども、おそらく町長の答弁だと抽象性が具体性になったくらいかなというイメージを受けているわけですがけれども、そういう把握で問題ないわけですかね。ちょっとその辺を確認・・・、まず確認をさせていただきたいと思います。

○町長（長嶋精一君） 私は、絵に描いた餅だとは全く思いません。渡辺議員はどうやったら社会増ができると思いますか。教えてください。

○3番（渡辺文彦君） ぼくは基本的には前の議会、前町長の時にも言ったんですけれども、社会増は基本的には無理だと思います。地域で人の取り合いをやっても基本的にはそれは成り立たないと考えています。

ぼくは人を増やすんじゃなくて、いまいる人たちが・・・、町長の考え方、この辺は一致すると思うんですがけれども、いまいる方たちがより豊かになった地域、豊かになる地域を目指すべきだと思います。人口が減っていてもその中で地域の方々が安心して豊かに暮らせる地域を目指すべきだと思います。ただその到達点である人口のバランスがどこにあるかは、私はまだ正確にわかりません。

ただ、市町の一番効率的な人口規模はどんかいかなと言われたら、20万だそうです。20万が一番行財政の経費を住民とのサービスとのバランスが取れるのは20万規模だとある本でぼくは見ました。それを考えると、我われの町は非常にちょっと難しいのかなとは思っていますので、正直言って、いま町のバランスがどこに取れるかは、正直言って、私は回答できません。

ただ、いま生業をされている方たちの生活をより豊かにするべき政策は、具体的に打つべきだと思っています。それだけは申し上げておきます。

○町長（長嶋精一君） いま渡辺議員が話されたことそのものですがけれども、私は、その人口何10万人のところが適正であるとかなんとかという議論には全く与しないでありまして、いまいる人たちがいかに幸せになるかということを重点的に考えれば、それはいま渡辺議員が話をし

たことと一致するわけでありますね。

したがって、私は、富士山に登るのはいろんな御殿場口も富士宮口もありますけれども、富士山に登るということは一致しているわけです。その経路というものは違うかもしれませんが、そんなには違いがないと、私は子育て支援の増額をいたしましたけれども、先ほど申しましたとおり、それによって人口が増えるということは全く考えておりません。

いまある人たちが幸せになる、子どもさんたちが生まれて喜ぶということ、これが非常に大切ではないかと思います。

昔と比較してだんだん、だんだん個の世界になっておりまして、お年寄りとの結びつき、近所との結びつきというものが非常に薄れた時代になっておりますので、私がやっている施策というのは、極力昔に戻るとのことじゃなくて、人間性を回復していきたいと、優しさとか、そういったものを大事にしていきたいなと思っております。

そういうことを、私のやりたいことが抽象的だと思われるとやることがなくなってしまいます。私は何と言われようとも考えていることを実行していきたいと思っております。

○3番（渡辺文彦君） 町長が今度提案された総合計画で町長の意気込みはそれなりに読み取れるわけですが、ただ問題は構想そのもののあり方ですね。先ほどの交流人口に対して、町の魅力を発信する、情報発信力を強めたいみたいなことを言っているわけですが、それは、今に始まったことじゃないわけです。ずっとそういうことが語られてきているわけです。

いま地方へ人を呼び込むのに一番大切な視点は何かといったら、絶対量が増えてこないで、リピーターを増やすということが基本的な戦略になるだろうということは、ブランド戦略の中でよく言われているわけですが、いま町の施設とかに対してお客さんがまた行きたい、また遊びに行きたいというものがあるかどうかなんです。その辺がないまま、今のまま情報を発信してもおそらくお客さんは増えてこないと思うわけです。

そういう意味で、必ず町の魅力を発信すればとかと表現がされるわけですが、町に本当に人を惹きつける魅力が開発されていない、発掘されていないのが現状かなとぼくは思うわけです。その辺に対してどのように認識されますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 渡辺議員のおっしゃることも一つだと思います。やはりリピーターを増やすということは一つの大きな戦略としてあるかだと思います。そういった中で、松崎が決してリピーターのお客さんが低いとは思っておりません。

例えば・・・、これは一観光施設に限ったことでございますけれども、例えばまつざき荘をみ

まして約50パーセントはリピーターのお客さんであります。

石部のあの棚田のオーナーさんが毎年更新をしてオーナーになるわけです。これも7割がリピーターでございます。そういったほかの松崎をまち歩き・・・、松崎の街並みが好きだという方でリピートしているお客さんも多いかと思います。

松崎町にはそういった魅力が本当に多いところだと思いますので、それをただ思うんじゃないくて、そこをどういった発信を・・・、それは発信の方法もいろいろありますので、これをしていくのかというようなことであります。今になって、遅いということもありますけれども、これは地道にやはりやっていくことであると思っています。

これはちょっと余談になりますけれども、昨年12月にテレビ番組、全国放送のテレビ番組をやまして、伊豆市の土肥から松崎町まで、この特集をやりました。西伊豆特集ということで。これは全国に放送されました。その中でランキングというのがあるって、そのランキングの20ある中で、松崎町が一番多く入っているんですよ。素材として。

ですから、テレビで取り上げられる素材としてもやはり松崎町はそういったことがあるなということを改めて感じたところでございます。

その中には、長八美術館が取り上げられたり、重要文化財の岩科学学校あるいは石部の棚田もそうです。そういったことで町外からのそういった松崎にある素材というのはかなり評価されていると感じています。

○3番（渡辺文彦君） ちょっと交流人口の件に関してもうちちょっとだけ話をしたいんですけども、いま松崎は魅力はそれなりにあるからお客さんはみえられているというお話ですけども、ただぼくはこの交流人口を考える時に問題にしなければならないのは、数の問題ではないんですね。いくらここに100万人来ようが、200万人来ようが、お金が全然落ちていないで、ただごみだけ置かれていったら何の意味もないわけです。やっぱりこの町にいかによそから来た方がお金を落としてくれるかということがおそらく交流人口を求めるところの一番大きな目的だと思うわけです。ただ人を集めるだけではないと思うわけですね。ところが、町の中にそのお金が落ちるような状況がない。それを民間が努力していないからだと言われてしまえばそれまでなのかもしれないんですけども、その辺に対するフォローをもっと町が積極的にやっていく必要がいまあるのではないかなとぼくは思うわけですけども、その辺はどうお考えでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 当然観光客、域外からのお金を持ってきて、そこで町内で消費してもらってということで、そこでお金を循環させるということで、当然そこは交流人口の増

加というのは、そういった効果があるかと思います。そういった中で、一つ具体的には今度この後やるかと思いますが、道の駅の再整備というのがあるわけです。ここは大きな目的としては、やはり交流人口の拡大という目的がありますけれども、それとともに松崎の皆さんの収入の増加、いわゆる所得を増やしたいという目的も一方ではあるわけですので、観光客の皆さんにお金を落としてもらって、なおかつ町民の皆さんの懐にお金が入るというような、そういったことで一つ道の駅の今後の整備は考えているということでございます。

○3番（渡辺文彦君） いま道の駅の話で、ちょっと飛ばして4番目に、先にここで話しをさせていただいてよろしいでしょうか。

4番目にちょっと飛びまして、パーク構想のところについてちょっとお話を伺いたいと思うわけですが、一応ぼくの質問は、完成時期とか予算について伺っているわけですが、それ以外に、ここに細かく書いたらきりがないので、大まかにこういうふうな形に提案させていただいているわけですが、いま言った・・・、今後町はこの道の駅の整備に関しては、今年はあるですかね。500万円位ですか。整備計画ですかね。道の駅に関しては。設計ですね。それをまず確認したいんですけれども、ある程度の図面が示されているんですけれども、それを新たにまた実施設計をされるというのは、どのようなことをまずイメージされているのか。

○企画観光課長（高橋良延君） 今回お示しした基本計画というのは、あれはあくまでもイメージ図という形でございます。詳細な設計ではございません。

今回30年度に設計予算で盛るのは、正式に直売所の実施、こういった建物で、実際に中をどういうふうにしていくかというような具体的な設計、あとは、駐車場を今回大幅に変えますので、そういったところの駐車場のレイアウト等々を具体的に設計を満たすものでございます。

○3番（渡辺文彦君） 道の駅に関しては、将来的な縦貫自動車道の整備も含めてという形で検討していきたいと・・・、またオリンピックも見据えて交流人口が増えることも見越すことで整備を進めたいということもあるかと思うんですけれども、この辺に関して、ぼくはやっぱり・・・、前も全員協議会の時にお話があったと思うんですけれども、縦貫道ができて、下田から来たお客さんが道の駅を使う・・・、松崎下田線ですか、そこを通って道の駅に来る理由があるとすれば、やっぱりそこには特別な人を惹きつけることがなければ、おそらく無理なんだろう。多くのお客さんは南に行って海岸線を通って松崎のその橋を渡って、中川方面には行かないで土肥の方に行っちゃうのかな、要するに周遊してしまうのかなというイメージなんですね。ぼくは。

だから、道の駅をあまり充実してもそんなにはお客さんは期待できないのかなというのが、ぼくの正直な感想なんです。この点に対して観光を扱っている方にも2～3意見を伺ったんですけれども、やっぱりトイレ休憩だけではいけないし。よっぽどそこに行くものがないと寄れないよねというのが大方の意見でした。

そうすると、やっぱり道の駅ができて、人を呼べるものがあるとすれば、やっぱり依田邸がいかにも人を呼べる施設になるかなということだと思っわけですね。

道の駅だけの機能だけではおそろくなかなか人が寄ってこないのが現状かなと・・・、そこに設備投資して、地域の農産物を集めて地域の方に利用してもらうだけでは費用対効果はおそろく得られないのかなというのが、ぼくの感想です。

そういう意味では、道の駅パーク構想はあまり・・・、道の駅に対してはあまり経費をかけないで、むしろ旧依田邸にそのお金をもっていく方がぼくは賢明かなという考え方を持っているわけですが、その辺はどうですかね。

町長、簡単に・・・、この辺は簡単で結構です。これはまだこれから話ですので。

○町長（長嶋精一君） 私は、道の駅パーク構想の中で、道の駅を充実させたいという第一の目的は、観光客さんに来てもらいたいということではなくて、地元の住民の皆さん方がそこに買物に来ていただきたい。地元の食材を買物に来ていただきたい。その食材は非常に安く、いいものを安く出す人は売っていただくということで、松崎町の全体の所得というのは非常に低いものですから、物価を下げたい。要するに、地元の住民がいっぱい買いに来ていただいて、その光景を見た観光客の皆さん方が「なんだ」「なんだ」と言ってそれに注目しはじめる・・・観光の第一というのは、どこに行っても観光客目的のところはだいたい失敗しております。地元の人たちが潤うところがやはり当然的にリピーターも多いし、成功するわけでありす。

したがって、そういう意味で第一に地元の人に買いに来ていただく、地元の人、農家の人がいっぱいご自分で作った作物を出してもらうということに私は重点を置いております。

いまもう既に企画観光課の職員に対して、松崎町の農家の人・・・、誰が何を作っているということを徹底的に調べあげて、それをただ人から聞いているんじゃなくて、実際訪問をして、Aという農家さんなら農家さんに行くと・・・、そうすると、Aさんという人が、実はBさんは自然薯を作っているよとか、いろいろ情報が集まるわけです。情報というのは、汗をかいて情報を得るというのは非常に強い情報になります。そういうものを網羅して、道の駅でそういう販売所をつくれば、決してそこに、出す商品がなかったというようなことがないわけでありま

す。

当然季節によってはない作物もあるでしょう。それについては、市場から買い入れるというように当然あるわけでありますが、そういうものについては市場から仕入れるわけですから、多少高くはなるかもしれません。しかし、四季折々のやはり商品を取り揃えなければならないものですから、そういうことは実施していきたいと思います。

また、所信表明でもありましたが、帯広だとか、姉妹都市関係のそういう作物というか、名産品なども取り揃えたような道の駅にしていきたいと思っております。

○3番（渡辺文彦君） 町長の想いはよくわかるわけですがけれども、松崎には既存のJAとより道売店の2か所がありまして、地域の生産者の方がそこに出して、また地域の方で購入しているわけでありまして。またもう1か所増やしても、おそらく需要が増えていないのに供給だけ増えていくという状況の中で生産者の所得が増えるかどうか、正直言ってかなり疑問符が付くところであります。

この辺はまた議論をしなければいけないところですがけれども、これじゃあ時間がなくなりますので、元に戻りまして、集積の問題にちょっと触れておきたいと思います。

この件に関して、私が農業委員長に町の農地の利用計画を出していただきたいということ常を、日頃申し上げておりまして、農業委員長はこのたび2月いっぱいくらいでまとめたということで、ある程度原案はできたようなことをおっしゃっていたと思うんですが、その農地の・・・、松崎の農地をどういうふうに活用するかというイメージがないと、集積をしてもだめなんです。おそらく。

結局集積する効果が生まれてこないと思うわけですよ。ぼくは。だから、先に進めなきゃならないのは、町が具体的な・・・農地をどういうふうな形で活用していくのか、町の農業はどうあるべきかという方向性をまず出さなきゃいけないと思うわけですね。

あれは、なんとか今回一つの施策のパターン、試験的なパターンになるかとは思いますがけれども、そういうところを町内全体に広げていって、ある地域は畑、ある地域は水田という形で使いわけをして整理をしていかなければ、土地の利用、農業の効率化は図れない。そういう前提のもとで農地を集積させていかないと・・・、ただ集積しました、この1か所に集めました、でも担い手がいません、そんな増えたところは誰も使いませんでは困るわけですね。

その辺の計画を具体的に早急に進めていただきたいわけですがけれども、ある程度農業委員会の方からできたと思いますので、その辺の内容があったらお願いいたします。

○産業建設課長（糸川成人君） 今年度、農業委員会と農地利用最適化推進委員の勉強会という

ことで、1年間をかけて、農地の利用計画ではなくて、農業振興ビジョンということで松崎町の農業の将来像ということで、どういうところをやっていくかということを中心にしてやっていくかということ計画いたしました。

そうした中で、一般質問の回答の中でお答えしたとおり、農地の集積化等が重点課題ということで挙がっているところです。

その話の中でも、議員さんがおっしゃるとおり、その土地の利用の使い方の分けをやった方がいいんじゃないかということは当然出ておりまして、田んぼが広がっているところについては区画を大きくして、大規模、効率化を図るというような集積を図る。

中山間地域、山の方につきましては、集積というのはなかなか難しいものですから、そういうところについては、特産品・・・、ぼんかんとか、そういうもの、特産品を多く集積といいますか、そういう区域にしたらどうかというような意見が出ております。

そういうところの中で、優先順位を付けて、例えば付加価値の高い作物を研究していく、そういうものについては中山間地域・・・、ぼんかんとか、そういうものを中山間地域でやっていくとか、あとは、担い手の育成ということで、農業委員さんが中心となって後継者もしくは移住者、そういう方について指導をしていくというような形を検討しているところです。

一応そうした中で役割分担としまして、県、町とかJAあとは猟友会、ジビエの関係なんかの猟友会等も極力をしながらやっていこうというような農業振興ビジョンを今年度3月の最後の農業委員会、今年度の最後の農業委員会の中で一応確定をしていきたいなというところで進めています。

○3番（渡辺文彦君） この計画をしっかりとやっていただかないと・・・、つい先ごろ・・・、青年就農給付金、国から150万円をいただいて農業ができる制度があると思うんですけど、それを活用した若い方がやっぱりここでは農業ができないということで撤退されていますよね。そういうのが今の町の農業の現状だと思うんですね。

若い方を・・・、交流人口なり・・・、地方から・・・、よそから人を招き入れたいといっているけど、町が受入態勢ができていない現状があると思うわけです。いくら若い方たちが入ってきて、ここで農業なりで生計が立てられなければやっぱり出て行ってしまうわけですよね。

その辺に対して、それは個人の努力でやれといっても限界があると思います。その辺でやっぱり町がやっぱりできることがもっとあるのではないかな。もっと町が機能すべきだとぼくは思っているわけです。そういう意味で・・・、宮崎県の綾町というところがこのあいだ新聞に紹介されていましたけれども、ここは農協と行政が共同出資して農業法人を立ち上げたそうです。

その方たちが自分たちの農業をやりながら、地域の農業の方々を支援していくんです。生産から販売から・・・、人が足りなければ、その方たちが支援に行くし、販売ルートがなければ、その販売ルートを開拓していくみたいな・・・、行政と地域の生産者が一体となって活動してすごい成果を上げているという記事が出ていました。

やっぱりこういう取り組みが、私は松崎にも必要なのかなと思います。そういう生産体制になるだけ早く農業委員会を中心に作り上げていただけたらいいかなと思います。

次に、桜葉の生産に対してなんですけれども、桜葉に関しては、町長もおっしゃるとおり需要があるのにも関わらず供給が足りないというのがネックになっているということで、生産体制の強化ということが言われるんだと思うわけなんですけれども、現状は生産者そのものが減っている、高齢化、減少しているということとやっぱりその前の産業建設課長であった今の総務課長が、まるけの問題を盛んに・・・、しきりに言われていたと思うんですけれども。桜葉生産を拡大するには、ここの過程がやっぱり一番ネックになっているんですね。おそらく。この過程をどうするかということを真剣に取り組まなければいけないのかなと思います。

ぼくは、ここに関しては、桜葉のまるけの機械を町が補助金を出してでも購入すべきだとぼくは考えています。本当に桜葉の拡大をしたければ。地域の方々に、例えばお年寄りの方にまるけの作業を委託してやってもらうというだけでは生産量は伸びていけないと思います。

生産量を伸ばすのは、農地さえあればある程度拡大できるわけなんですけれども、それを・・・、葉っぱを取って来てまるける人がいなければ、そこで歯止めがかかっちゃうわけですね。だから、伸ばすきっかけ増やすには、やっぱりそのまるけを・・・、一番ネックになっているところを解消することが基本的な対応になるのかとぼくは思います。

この機械はほかに需要がないから高価になるかとは思いますが、その辺はやっぱり検討しながら進めていかないと、いくら生産体制を強化すると言いつても、これはいつかまた限界にくるとぼくは思っています。その限界というのは、生産者がいないということによる限界がまずそこにみえているわけですね。新たに入ってくる人がいないということにもネックがあるわけです。

だから、生産体制を強化したいと言いつても、その生産体制を強化できないわけです。そういう意味では、ある意味では、法人化ということも町も検討されているみたいなんですけれども、その営農集団みたいな組織を立ち上げることによって、大きな力をもって・・・、一個人じゃなくて、集団で営農するというのは・・・、形態を模索することも大切かとは思っています。

でも、やっぱり一番ネックになっているまるけの過程、その辺をどうするか・・・。それが、

桜葉の需要に関して・・・、正規のきれいなものばかりじゃなくて、粉末にするものの需要も伸びているもので、その辺の使い分けをしながら、どういう体制で生産量を確保できるか、その辺をやっぱり検討される必要があるのかなと・・・、その辺は生産者とかまるけの方の関わる範囲で、行政の立ち入る範囲ではないかもしれないんですけども、その辺もやっぱり考えた中で対応をしていかないと、ただ桜葉生産を伸ばしたいといってもやっぱりネックかなと思います。

ついでですけれども、いまある地域コミュニティを考える仲間のグループがありまして、その方たちが桜葉生産をもっと自分らも支援したいということで、桜葉料理を考えて、もっとみんなで広めたらどうかという研究会をやっています。

そこでやっぱり出てくるのは、いくらその生産品を増やしていっても供給をするところ自身が止まっていたら、やっぱり話にならないという意見が出るわけですよ。そういう意味では、ここを一番強化していくという体制が必要なのかなと思います。

今後、またお金のかかることで、すぐには回答ができないでしょうけれども、その辺は検討されたらいかがかと思います。どうでしょう。

○町長（長嶋精一君） 渡辺議員のそのご意見というのはもっともだと思います。それで、まるけ作業に対する機械というのは、機械を作ったらどうかということですけども、それもぼくのいう生産体制の中に入っております。

そして、議員の時に、今の総務課長が建設課長の時に、そのまるけ作業についてのネックについて研究しました。浜松からメーカーさんと呼んで、検討したこともございます。ただし、私も議員でいろいろほかにもやることがあって、それで中断してしまったんですけども、そういう点においては継続して、そういうメーカーさんとのつながりもありますから、研究をしてまいりたいと思います。

それで、私は、これから松崎町のやることは、オンリーワンというものを目指さなければいけないと思っています。ほかでいっぱい作っているところをいくら松崎町ががんばったって勝てるわけがないんですね。そういう点が私の考えに立脚しております。

桜葉は、わが町が7割、西伊豆町、南伊豆町で合わせるとこの伊豆の南部で100パーセントを生産しているわけですよ。よそでは作っていない。これにもっと弾みをつけて、生産体制を強力にして、中国に負けないような生産量にしていきたいと思っております。

話はそれですけども、オンリーワンでいいますと、なまこ壁もそうであります。これは私が作ったわけじゃありません。すばらしい先人方が作られて残してあるわけですね。なまこ壁

があるのは松崎町、隣の下田それから倉敷等そう多くはないわけですね。

これをいかに広めて、お客さんに来ていただく、これが大きな仕事になるわけであります。

○議長（土屋清武君） 町長、時間があまりないですから簡略的にお願いします。

○町長（長嶋精一君） それで、なまこ壁をバックに女性が着物を着て、かすりでもなんでも着物を着てあるく姿は美しいですね。

私は、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代までの女性にコンテスト等をやって、松崎町を広めたいなと思っております。素晴らしいものをいかに我われの時代でそれを顕在化していくか、これが大事なことではないかと思います。

渡辺議員が話されましたその機械についても、私は生産体制の一環として検討してまいりたいと思います。

そして、オンリーワンというものについてこだわっていきたいと考えています。以上です。

○3番（渡辺文彦君） 5分延長をお願いいたします。

○議長（土屋清武君） 5分延長を許可します。

○3番（渡辺文彦君） 一応いま町長がおっしゃったように、ぼくは、町長が言われるオンリーワンを目指すというのは、やっぱり町が生きていくためには、最も目標に掲げなければならない政策だと思います。

いろんなことをやっぱり掲げても仕方がないわけで、町が一番強みを発揮できるところに力を、重点を置くということは大切なことだと私も思います。

ただ、問題は・・・問題はというか、これは同じことの繰り返しになってしまいますけれども、この魅力の発信の仕方が、おそらくこれは今までずっと歴代の町長はされてきたことなんです。きっと。でもそれが結果として成果が生まれてこないとすれば、どこかでやっぱり何か問題があったのかなと思うので、その辺をもう一回精査して、本当に実効性のある目に見える形の成果を上げていただきたいと思います。

私の質問はちょっと支離滅裂になってしまいましたけれども、一応総合計画をとおしながら、町のビジョンを語りたいということであつたわけですが、ちょっと中途半端な質問になって、まとまりがなくなってしまったんですけれども、ただ、基本的にはこの地域で生きている、いま生きている方たちの生活がやっぱり安定するような方策をするべきだというのが、ぼくの基本的な考え方です。

よそから人を求めて、ここに定住してもらうことではなくて、この地域の中にいる方々がいかにして今の生活をより拡大できるか、その辺に対して力点を置いた施策を打っていただきたい

いというのが私の考えであります。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（土屋清武君） 以上で渡辺文彦君の一般質問は終わります。

午後 1 時まで休憩いたします。

（午前 1 1 時 5 4 分）

---